

社会福祉法人稚内市社会福祉事業団

令和4年度事業報告

心身の障がいや加齢などに起因する生活上の困難に対し、過不足の無い社会的サービスを地域住民に継続して提供するために、この一年、理念浸透とスローガンとして掲げた『勇往邁進』を意識し、全職員が当事者意識をもって担う業務の進展に向けて努めました。

日常的な感染症対策はもとより、職能集団としての支援・サービスの質的向上を目的とした各種研修や訓練を企画実施すると共に、体制を維持するための構えとして職員住宅の建設とインドネシアから外国人介護技能実習生の受け入れを積極的且つ計画的に執り行いました。また、国が定める「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に基づく職員処遇改善や、経営努力による給与表の平均3.5%の引き上げ、物価高騰に順応した地方自治体に向けた支援金の要請など、情勢に応じたアクションと従事者確保に向けた多様な取組を行い、手薄であった調理従事者をはじめ20名の多職種職員を採用することが出来ました。

特別養護老人ホーム事業におきましては、前年度末に整備した介護支援に対する各種デジタル機器の運用とその導入効果に対する評価を行い、職員同士の業務コミュニケーションの向上や勤怠シフトの見直しなど、感情業務と言われる介護業務の不安やストレスを緩和することが出来たと考えます。また、地域住民にとってのセーフティネットとして体制の維持に努め、緊急性を鑑みた短期入所のベッド調整と、入所待機者のみならず支える介護者の心身負担にも考慮した長期入所受入れに努めまして、従来型、ユニット型合わせて140名の定員規模にあって高い利用率を維持することが出来ました。

従来型では、デジタル機器の導入効果として、全ベッドに見守りセンサーを設置したことで深夜早朝勤務数を1名減員することが出来、日中勤務者の増員が叶い手厚い介護が可能となりました。インカムの導入は業務コミュニケーションを向上させ、広い施設でのより迅速な対応と業務負担軽減を図ることが出来たと考えます。また、11月には外国人介護技能実習生3名を受入れ介護技術の習得に向けた指導に努めていますが、半年後には配置人員として承認され職員体制にゆとりが生まれるなど実習生の受入れ効果が期待されます。

ユニット型では、4つの生活単位が2階層からなる構造ですので、特に深夜帯の少人数シフト勤務時に於けるインカムは心強い業務アイテムとなっています。また、この施設は法人の施設の中でも超高齢期に該当する入居比率の高い施設ですが、そ

の理由としては、プライバシーが保たれているなど住環境によるところが大きく、生活単位が少人数で他の入居者や職員との関係性を重んじたユニットケア施設としての効果であろうと考えます。

養護老人ホームにおきましては、入所者の軽介護度化に伴って入所者個々のパーソナリティーを重んじ、園生活がその人らしく活気あるものとなるように努めました。また、緊急時や意志発信が不自由な方の安全と安心を確保するナースコールハンディ機（PHS）の更新と、個別利用冷蔵庫の増設、避難口の外部誘導スロープの整備を行い生活の利便性と安全性の向上を図りました。

デイサービス事業におきましては、コロナ感染による利用控えやサービス提供事業所の増加など様々な要因が重なり全国的に経営悪化が伝えられますが、併設型の富士見園、単独型の潮見園はそれぞれの特色と形態に応じた運営に配慮し、利用登録者を増やすため情報発信など、居宅支援事業所のケアマネジャーとの利用調整を心掛けてきました。定員一杯の利用受入れを基本としながらも、利用実態に応じた職員数の見直しや経費率の高まりには経営意識を高め、全職員が当事者意識をもって努めた結果、両園とも自己の目標利用率には至りませんでした。両施設の定員規模である通常規模型デイサービスの全国平均利用率を上回ることが出来ました。

富士見園におきましては、施設・設備等整備計画に沿ってエアコンディショナーを設置し、利用快適性の向上を図りました。

潮見園におきましても、エアコンディショナーの設置の他、築後30年が経過した浴室を和風モダン調にリフォームしました。天井、壁面と併せて浴室水栓等の設備も取り換え、使い勝手の向上とスーパー銭湯気分であずましくご利用いただいております。大きなお風呂に入って食事が摂れる、ゆっくり利用のデイサービスとして付加価値を高めました。

居宅介護支援センター潮見園、東地区在宅介護支援センターにおきましては、欠員職員の補填が叶わず、ケアマネジャー1人体制で運営してきました。市内の関連事業所におけるケアマネジャーの充足状況やハローワークからの求職情報、また、担当職員の業務負担と仕事の質の確保を勘案しまして、受託事業である東地区在宅介護支援センター（受託事業名：老人介護センター事業）の次年度以降の受託契約の辞退を申し出しまして、委託者である稚内市に了承していただきました。

就労継続支援B型事業所稚内市北光園におきましては、職員体制の異動もあり支援体制の維持と体制の再構築に取り組んだ一年でした。また、物価高騰による生産活動における経費率の高まりなどの影響が大きく、工場経営の健全化を図る苦肉の策と致しまして、水耕栽培野菜の元売り価格とクリーニング請負単価を改定し、利用者の作業対価である工賃の原資となる事業収支の適正化を図りました。

利用者への支援に関しましては、一般就労の蓋然性の高い方に対して、希望する調理補助員として法人総合厨房での職場実習を実現したほか、研修旅行や生活指導の一環とした外部講師による生活マナーを題材とした研修会の開催など、多面的な支援の必要性と在り方を模索し新たな取り組みをしました。

施設整備に関しては、クリーニング工場の屋根部トタンの塗装修繕と作業工場避難口の避難誘導スロープを設置し機能性を高めました。

共同生活援助事業所スマイルらいふにおきましては、新築後11年を経過したグループホームの外観塗装修繕と、全館の2階居住スペースへの洗濯機設置のほか傷んだ生活調度品の一部更新など、計画的な家屋保全と生活上の利便性に配慮しました。